

岡山県における課題を解決する方策

1 課題を解決する方策

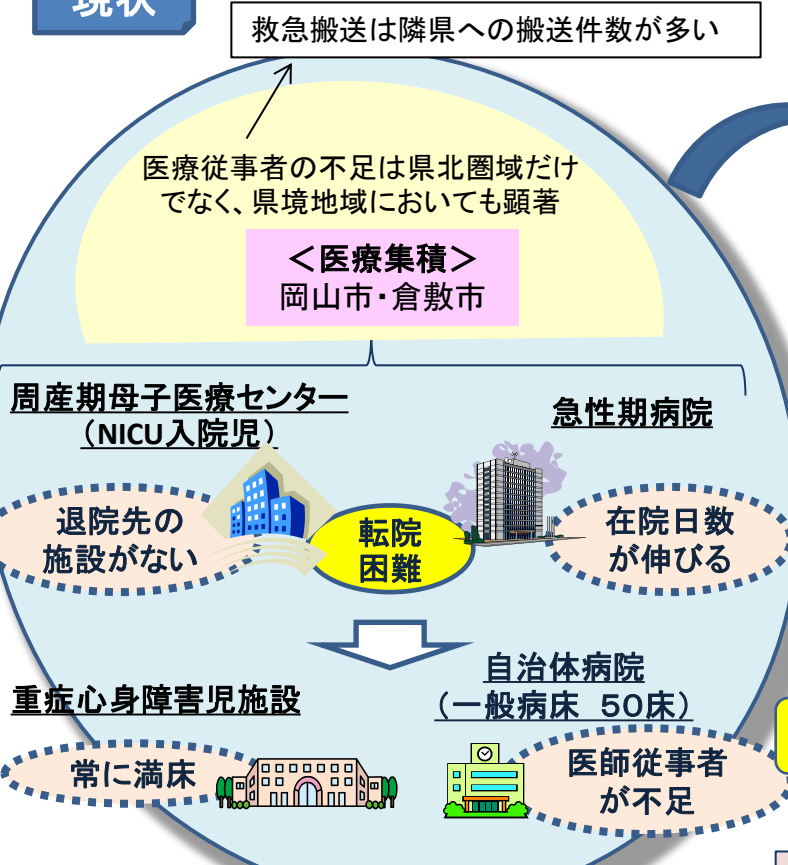
- ① 課題：医療従事者が岡山市・倉敷市に集約しており、県北圏域だけでなく県境地域においても不足し、偏在が顕著。
目標：医師の地域偏在の解消に取り組む県地域医療支援センター(仮称)と連携しながら、自治体病院の再編、救急医療体制の整備など地域の医療課題の解決に向けて積極的な取り組みを行う市町村を支援することにより、住民、医療関係者、行政(県と市町村)が一体となって地域医療を守る場(意識)づくりを推進する。
対策：「市町村が主体的に行う地域医療の環境づくりへの支援」
・住民や医療関係者と共に共通認識を持ち、医療従事者が地域医療に魅力を持てる環境づくりを行う。
- ② 課題：急性期病院や周産期母子医療センターの後方機能を担う回復期病院や重症心身障害児施設が不足しており、さらに退院後も居宅等において継続的に医療が受けられるよう在宅医療サービスとの連携体制を確保することが必要。
目標：自治体病院の再編や病院の耐震化に合わせ、回復期リハビリテーション病棟やポストNICU施設を整備するとともに、関係団体と連携しながら、在宅医療を担う機関や人材の充実を図り、共通の診療方針に基づく連携体制を構築する。
対策：「自治体病院の再編・ネットワーク化」「自治体病院の回復期リハ病棟整備」
・赤磐市民病院から赤磐医師会病院への病床移動に伴い、回復期リハビリテーション病棟を整備する。
・赤磐市民病院を在宅療養支援センター機能を持つ診療所へ転換し、医療・介護の連携拠点とする。
・回復期リハビリテーション病棟を新設し、救急医療等を担う瀬戸内市民病院の建替整備を支援する。
「障害児(者)総合療育・医療センターの整備」
・障害児(者)のための救急外来、リハビリのほか親子入院による家庭でのケア指導を行う専用病棟等を持つ総合療育・医療センターを整備し、NICU退院児の受入機能の強化、重症心身障害児施設の入院長期化の解消を図る。
「在宅医療の推進」
・医療・介護連携ネットワークの構築を図ると共に、訪問歯科診療の促進、訪問薬剤師の養成等を推進する。
- ③ 課題：本県の医療資源を活かし、高度・専門的医療の県内均てん化や災害・救急医療体制の拡充を図ることが必要。
目標：内視鏡外科手術など高度技能を要する人材の育成を図るとともに、災害・救急医療に係る施設・設備整備を進める。
対策：「低侵襲治療センター(仮称)の整備」
・内視鏡手術のトレーニング設備を整えたセンターを設置し、教育プログラムにより県内の認定医を増やす。
「災害医療の連携体制強化に必要な施設・設備の整備」
・国立病院機構岡山医療センター等を新たに災害拠点病院に指定し、必要な施設・設備整備を行う。
・災害拠点病院が行う防災用発電機やDMAT専用車両等の施設・設備整備に対し補助を行う。

2 地域医療再生計画終了時の姿

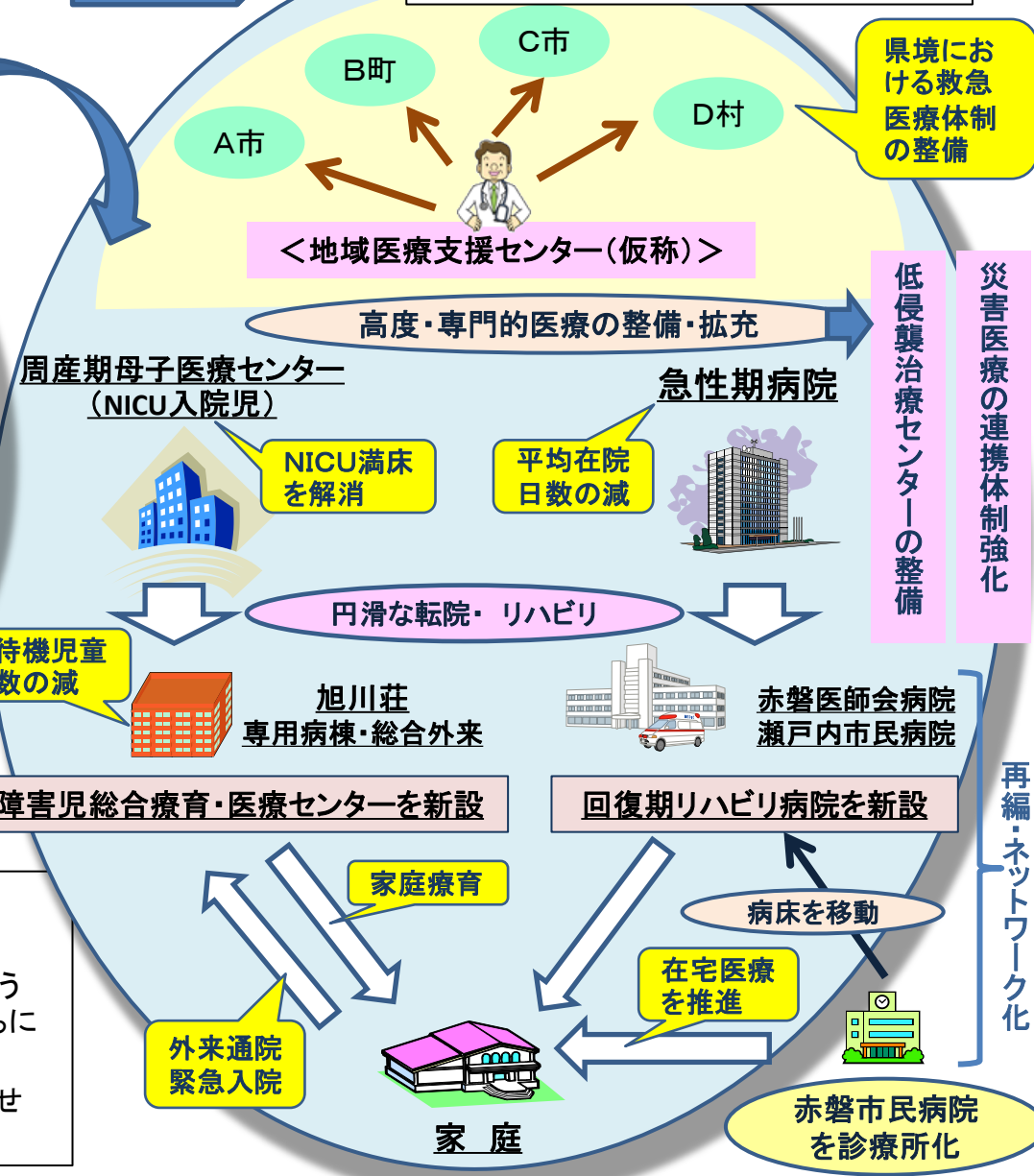
本県の質の高い医療資源を県下すみずみに行き渡らせることにより、医療従事者の地域偏在が緩和されるとともに、高度・専門的医療の県内均てん化が図られ、県民がいつでもどこに住んでいても安心して医療が受けられる体制が確保される。

岡山県地域医療再生計画（急性期病院の後方機能を担う病院の整備に重点化）

現状



実施後



課題

- 医療従事者が岡山市・倉敷市に集約しており、県北圏域だけでなく県境地域においても不足し、地域偏在が顕著。
- 急性期病院や周産期母子医療センターの後方機能を担う回復期病院や重症心身障害児施設が不足しており、さらに在宅医療サービスを行う事業者を増やすことも必要。
- 本県の質の高い医療資源を県下すみずみまで行き渡らせるため、高度・専門的医療機能の県内均てん化が必要。